

静岡市清水市民活動センター
平成 27 年度市民活動センターに関する市民アンケート実施報告

1. 目的 市民活動センターについて、一般市民の認知度をさらに上げ、利用を促す。
ニーズや課題、センターへの意見などを把握し、今後のセンターの事業に役立てる。
生涯学習やボランティア活動を行っている市民に、さらに一歩進んで社会貢献的な活動に関心を高める契機とする。
2. 実施対象 清水区内生涯学習交流館利用者、清水ボランティア市民活動センター利用者、大学生ほか
3. 実施期間 平成 27 年 12 月 18 日～平成 28 年 1 月 31 日
4. 実施方法 清水市民活動センター利用登録団体のうち、交流館でも活動をしている団体、大学生、センターと協力関係のある清水ボランティア市民活動センターに協力していただき、各施設利用者に回答を求めた。
5. 回収の目標 100 件以上を集めることを目標とした。
6. 回収状況 184 件

【考 察】

1. 回収について

センター利用団体やボランティア市民活動センターの協力で、目標件数の 2 倍近い件数を回収することができた。

2. 回答について

回答者については、

- ① 年齢 生涯学習交流館は 60～70 代の年齢の高い層の利用が多い
大学生にも協力を求めたため、両極化した。
30、40～50 代の現役世代からの回答が少なかった。
- ② 性別 女性 7、男性 3 の割合で、女性が多い
- ③ 住まい 清水区在住者が主

問い 1 あなたは市民活動(ボランティアを含む)を行っていますか。

主に、生涯学習交流館の利用者や市民交流まつりでアンケートを取ったため、昨年と比べると、市民活動活動(ボランティアを含む)の経験者の割合が少なかった。36%だった。

活動を行っている人の中では、

問い 2 市民活動の情報をどこで得ていますか(複数回答可)

行政窓口	4 件	(6%)
生涯学習施設	21 件	(29%)
市民活動センター	21 件	(29%)
静岡市中央福祉センター・清水社会福祉会館(はとびあ清水)	5 件	(7%)

インターネット	16 件	(22%)
その他	5 件	(7%)

その他意見…クラブ活動、先生、口コミ、チラシ、学習交流館、個人団体に施設訪問など活動拠点で情報を得ることが多いが、若年層は SNS を活用し情報収集、発信を行っている。

問い 3 活動はどこでおこなっていますか(複数回答可)

生涯学習施設	31 件	(48%)
清水・番町市民活動センター	17 件	(26%)
静岡市中央福祉センター・清水社会福祉会館(はーとぴあ清水)	10 件	(15%)
その他	7 件	(11%)

その他意見…法人事務所、自前の活動施設、あざれあ、AOI、マリナート他、市のその他の施設

問い 4 活動をする上で、知りたい事や相談したい事がありましたら記入してください。(複数回答可)

広報の仕方	15 件	(18%)
パソコンの使い方	10 件	(12%)
インターネットの活用	10 件	(12%)
団体の組織運営	12 件	(14%)
団体の次世代育成	10 件	(12%)
団体の資金獲得	8 件	(10%)
助成金	12 件	(14%)
会計実務	5 件	(6%)
その他	1 件	(1%)

その他意見…市民活動の実施事例、他団体との交流/ネットワークの機会があればよい
 広報の仕方、団体の組織運営、助成金、次世代育成が多かったが、これらは、当センターで毎年講座を開催しているテーマでもあるので、今後、実施する時は、しみずボランティア連絡会の会合での案内や各団体への声掛けを、一層強めたい。

問い 5 清水市民活動センターを利用したことがありますか。

利用したことがある	46 件	(73%)
施設があるのは知っているが、利用したことは無い	11 件	(17%)
施設があることを知らない	6 件	(10%)

活動を行っていない人の中では、

問い 2 今後、機会があれば、社会を良くするための活動をしてみたいと思いますか

思う	88 人	(81%)
思わない	20 人	(19%)

問い3 思うと答えた方は、活動や団体の情報をどこで得ようと思いますか。(複数回答可)

行政窓口	8 件	(8%)
生涯学習施設	37 件	(37%)
清水・番町市民活動センター	9 件	(9%)
静岡市中央福祉センター・清水社会福祉会館	6 件	(6%)
インターネット	37 件	(37%)
その他	3 件	(3%)
その他意見…友達から、大学、TV、新聞・公報、地区社協		

機会があれば活動をしてみたい方が 81%と多く、情報を得る手段として、インターネットや生涯学習施設での広報が多いので、今後センターの広報活動を考慮したい。

3. まとめ

アンケート実施の場所によって傾向はかなり異なると思われる。昨年度の調査と比べ、今回の調査では、生涯学習交流館で得たものを社会のために還元する、という次のステップへの意思を持っている方が多いようである。

センターとしては、交流館・ボランティア市民活動センターとの連携をさらに強め、地域に貢献する市民を増やすよう、事業を進めていきたい。